

公開ワークショップ報告

『U理論入門—過去や偏見にとらわれず、本当に必要な「変化」を生み出す技術』

2014年7月12日に、熊本大学にて、公開ワークショップ『U理論入門—過去や偏見にとらわれず、本当に必要な「変化」を生み出す技術（拠点A：紛争解決学・合意形成学の拠点形成）』が「U理論」の日本の一人者の先生と呼ばれる、中土井僚氏によって、行われました。本報告は、U理論について簡単な紹介、そしてワークショップの現場の様子をまとめたものです。

1. U理論について

1-1 U理論とは何か？

U理論は、マサチューセッツ工科大学上級講師のオットー・シャーマー博士らとマッキンゼーによって開発された組織開発・葛藤解決・イノベーションのための理論です。

今回のワークショップで、「何を」「どうやるか」ではなく、「どこからやるのか」という対立を超え、創発を生み出す新しい視点について、今回は、ケーススタディを通じて、体験的に学びます。

U理論を一言で言えば、中土井先生によると、「過去の延長線上にない変容やイノベーションを個人、ペア、チーム、組織やコミュニティ、そして社会で起こすための原理と実践手法を明示した理論」です。

1-2 U理論の三つのプロセス

「出現する未来」から学び、イノベーションを創り出していくプロセスをUのモデルで表現されています。U理論は大きく言うと、この三つのプロセスによって成り立っています。

- ① センシング：ただ、ひたすら観察する
- ② プレゼンシング：一歩下がって、内省する。内なる「知」が現れるに任せる
- ③ クリエイティング：素早く、即興的に行動に移す

1-2. U理論の四つのレベル

レベル①ダウンローディング

お笑い芸人の例 過去の経験によって培われた？組を再現している状態

Mr Susanの例 Susanは何々歌手になりたいと言った時、皆、へえ、あなたが？みたいな顔をしていた。それは皆さんが過去の経験で判断した結果。

レベル②反証する

例：人生の輪 観察no分析 結論をつけない

レベル③共感的：自分の過去の？組を壊し、見えなかったものを見るという認知の限界に挑む。

レベル④プレゼンシング：ここから未来が出現しイノベーションが生まれると捉えている

2. ケーススーパービジョンで四つのレベルを紹介する

ケース提供者がまずケースの概要を説明し、ケースの中のそれぞれの関係者とその立ち位置、その中で、提供者自身はどんなふうに関わっているかを説明する。そのあと、提供者からその原因を説明する。説明が終わってから、より状況を明確にするために、参加者がケース提供者に質問。

以上はレベル1－2

ある問題に対する、なんでこの選択肢があるかと先生から質問させ、内省させる。レベル3に入る

「自分はどうせ〇〇の人間だから、こんな〇〇人生で終わっちゃうんだ」と提供者を引導する。

自分に向き合うことが怖いからだろう、提供者が一回場を出ていた。

報告：梁びき（熊本大学大学院社会文化科学研究科 博士前期課程1年）